

# ★ 採用Q&A ★



Q1 : 体力面で不安がありますが、警察官としてやっていけるでしょうか？

A1 : 警察学校では、警察官として必要な体力を身につけるために、効果的なトレーニングを行いますので安心してください。  
体力に自信がない方も、同期採用の仲間や教官の支えがあれば、きっと乗り越えることができるでしょう。  
ほとんどの学生が、自分の体力の向上に驚き、自信を持って警察学校を卒業して行きます。

Q2 : 女性が安心して働ける環境ですか？

A2 : 現在、熊本県警では多数の女性警察官や女性職員が、その特性を活かしながら仕事をしています。  
産前・産後休暇、育児休業などの休暇制度も充実しており、結婚、出産後も安心して働けます。  
子育てが一段落し、職場に復帰する前には研修が行われますので、休業によるブランクや不安等も解消されることでしょう。

Q3 : 警察官の仕事は危険ではないですか？

A3 : あらゆる場面に対応できるよう、警察学校で柔道・剣道・逮捕術等の訓練をしっかりと行います。  
危険な現場は、原則、多数の警察官で対応するよう決められています。  
また、現場では、刃物が刺さらない防護衣を身につけたり、犯人を制圧するために盾を使用したりして、警察官が怪我をしないように細心の注意を払っています。  
ちなみに、本県では平成以降、職務中に亡くなった警察官はいません。

Q4 : 県外出身者や民間企業からの転職者は、試験で不利になりませんか？

A4 : 県警では、あらゆる犯罪に対応できるよう、多種多様な人材を採用したいと考えています。

現に県警では、多くの県外出身者や民間企業からの転職者が大勢働いておりますので、安心して受験してください。

また、職歴のある人は、原則として初任給に加算があります。

Q5 : 女性でも活躍できる職場ですか？

A5 : ストーカーやDV、児童虐待などは、被害女性や子供への対策が必要とされるため、女性警察官が中心となって対応しています。

例えば、女性被害者から事情聴取するとき、女性警察官が対応した方が、被害者も話し易いでしょうし、細やかな心遣いができるからです。

本県では、女性の活躍の場の拡大や女性が働きやすい職場づくりを現在積極的に推進しています。

Q6 : 警察学校の教養や訓練は厳しいと聞きましたが…

A6 : 県民の安全を守るため、学生と教官が一体となって、体力や気力の強化、法律の勉強等に取り組んでいます。

初めのうちは厳しいと感じるかもしれませんが、学校生活に慣れるにつれ、自らと向き合いながら、日々成長していく自分自身を実感できます。

嬉しい時も辛い時も仲間とともに過ごすことで、絆や連帯感が生まれ、寝食を共にした同期生は、一生涯の友となります。

警察学校で得る  
最も大きなものの1つに  
同期との絆や友情をあげる  
人がたくさんいます。



Q7 : 休日・休暇はどうなっていますか？

A7 : 週休や祝日、年末年始の休日のほか、夏季休暇等の特別休暇があり、  
県警では、休暇を積極的に取るように推進しています。  
事件等で休日に出勤することもあります。代休を取ることができます。

Q8 : 警察官になると私生活まで制約されるのでしょうか？

A8 : 基本的に勤務時間以外の行動は自由です。  
実際に多くの職員がオフタイムを旅行や趣味などに当て、有意義な時間を  
過ごしています。  
警察官だから私生活が制約されるというわけではなく、社会人として誰もが  
皆、自覚ある行動が求められるのではないのでしょうか。

Q9 : 警察官と一般職員ではどのように違うのですか？

A9 : 一般職員は、警察官と違って犯罪捜査や犯人の逮捕、交通指導取締り  
などを行うことはありませんが、警察官の最高の相棒として、行政面の仕事を  
しています。  
具体的な仕事内容は、犯罪や事故の統計分析、鑑識資料の照合、会計  
事務、落とし物の受理・返還、情報管理、広報などです。

Q10 : 柔道、剣道の経験がありませんが、大丈夫でしょうか？

A10 : 警察学校で、柔道、剣道のいずれかを選んで訓練することになっており  
ますが、学生の大半は、柔道、剣道の初心者であり、警察学校の教官が  
基礎から丁寧に指導しますので、まったく心配はいりません。  
中には、警察学校で初めて指導を受けたことで剣道が大好きになり、その後も  
稽古を続け、剣道6段に合格した人もいます。

Q11 : 第1次試験に備えて、どのような勉強をすればいいですか？

A11 : 市販の問題集を活用して勉強した者、大学、高校の公務員講座で勉強した者、公務員専門学校などに通って勉強した者と、合格までの道のりは様々です。日頃から新聞等をよく読み、幅広い社会常識を身につけておくのも、一つの方法ではないでしょうか。とにかく、警察職員になりたいという強い気持ちで勉強を続ければ、道は開けると思います。

Q12 : 警察官になるために必要な資格や免許、特技はありますか？

A12 : 警察の仕事は多岐にわたっており、特別な資格、免許等は必要ありませんが、あなたの資格や免許、特技はいずれかの部署で活かすことができるでしょう。ただし、採用入校までに、警察官には普通自動車と普通自動二輪の免許(どちらもAT限定不可)を、警察行政・事務職員には普通自動車運転免許(AT限定も可)の取得をお願いしています。

Q13 : 警察学校の教官はどんな人たちですか？

A13 : 警察学校の教官は、刑事警察、生活安全警察、交通警察、警備警察、柔道・剣道など、各分野で活躍している優秀な警察官ばかりです。教官は、将来的に一緒に仕事をする熊本県警察の仲間として、皆さんに愛情を込めて知識や技能を惜しみなく伝えてくれます。学校に入校した当初は、慣れない生活で厳しいと感じるかもしれませんが、警察学校を卒業する時には、教官も学生も別れを惜しみ涙を流すこともあります。

Q14 : 警察学校の食事はおいしいですか？

A14 : 警察学校内にある調理場で栄養バランスを考慮しながら作られており、ボリュームもさることながら、警察学校の学生からは「美味しい。」と評判です。

Q15 : 警察学校では、外出、外泊はできますか？

Q15 : 最初の1か月間は、外出、外泊の制限がありますが、その後は平日の夕方から外出ができます。  
また、金曜、土曜は外泊ができ、日曜日夜まで帰省したり、友人と会うなど、それぞれに休日を楽しんでいます。

Q16 : 刑事や白バイ隊員になるための条件はありますか？

A16 : 刑事や白バイ隊員に限らず、本人の能力や実績、希望、適性、熱意などを考慮して、専門分野に進む機会が与えられます。  
例えば、大型二輪免許を持っていなかった人でも、免許を取得して、白バイ隊員として活躍している人はたくさんいます。

Q17 : 昇任制度はどの様になっていますか？

A17 : 学歴や年齢に関係なく、誰もが公平に昇任のチャンスがあります。  
努力次第で階級を上げることができるのも警察の昇任制度の特徴です。

Q18 : 転勤はありますか？

A18 : 転勤は原則として熊本県内で、本人の希望を参考にして決定されます。  
100%希望どおりとはいきませんが、本人の能力を最大限に活かせるような人事異動が行われています。  
本人の希望や能力によっては、警察庁や他機関等に勤務するチャンスもあります。  
また、自宅から通えない場所に転勤になった場合でも、独身寮や職員住宅がありますので、心配はいりません。

**A19 : 最初に交番勤務になるのはなぜですか？**

A19 : 交番では、パトロールや道案内、事件・事故の初動捜査など、警察官としての基本である様々な事案に対応することになります。  
それらの経験を通じて、警察官として必要な実務能力を高めていくことができるからです。

**Q20 : 警察職員の採用に関する説明会は行っているのですか？**

Q20 : 県警では、受験者に対し、警察業務の魅力や疑問を解消してもらうため、採用担当者等による県警主催の就職説明会を実施しています。  
実施日時や実施場所については、その都度、熊本県警ホームページに掲載しますので、ご覧ください。